

卓越大学院プログラム 事後評価調査 プログラムの基本情報

〔公表。ただし、項目12、13については非公表〕

機関名		東京大学		採択年度	2018 (H30)	整理番号	1805
1	プログラム名称	生命科学技術国際卓越大学院プログラム					
	英語名称	World-leading Innovative Graduate Study Program for Life Science and Technology					
	ホームページ (URL)	https://square.umin.ac.jp/wings-lf/					
2	全体責任者 (学長)	※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるもの場合は基幹大学）の学長名に下線を引いてください。 ふりがな 藤井 輝夫 (東京大学総長) (R3. 4. 1交替) 氏名 (職名)					
3	プログラム責任者	ふりがな 南學 正臣 氏名 (職名) (東京大学大学院 医学系研究科長・教授) なんがく まさおみ					
4	プログラムコーディネーター	ふりがな 吉川 雅英 (東京大学大学院 医学系研究科 教授) 氏名 (職名) きっかわ まさひで					
5	設定する領域	最も重視する領域【必須】	①我が国が国際的な優位性と卓越性を示している研究分野				
		関連する領域 (1)【任意】	③将来の産業構造の中核となり、経済発展に寄与するような新産業の創出に資する領域				
		関連する領域 (2)【任意】					
		関連する領域 (3)【任意】					
6	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)	G				
		最も関連の深い区分 (中区分)					
		最も関連の深い区分 (小区分)					
		次に関連の深い区分 (大区分)【任意】	I				
		次に関連の深い区分 (中区分)【任意】					
		次に関連の深い区分 (小区分)【任意】					
7	授与する博士学位分野・名称	学生が所属する専攻・研究科が授与する学位記に「生命科学技術国際卓越大学院プログラム修了」を付記する					
8	学生の所属する専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	東京大学大学院【医学系研究科】 分子細胞生物学専攻、機能生物学専攻、病因・病理学専攻、生体物理医学専攻、脳神経医学専攻、内科学専攻、外科学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、社会医学専攻、医科学専攻 【工学系研究科】 バイオエンジニアリング専攻、機械工学専攻、電気系工学専攻、精密工学専攻、マテリアル工学専攻、応用化学専攻、化学システム工学専攻、化学生命工学専攻、原子力国際専攻 【薬学系研究科】 薬科学専攻、薬学専攻 【理学系研究科】 生物科学専攻					
9	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			10 本プログラムによる学位授与数 (年度当たり) の目標 ※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。			
連合大学院		共同教育課程		40			
11 連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)							
アステラス製薬、オリンパス、キヤノンメディカルシステムズ、塩野義製薬、シスメックス、ジョンソン・エンド・ジョンソン、第一三共、武田薬品、東京大学産学協創プラットフォーム開発							

[公表]

14 プログラム担当者一覧								
※「年齢」は公表しません。								
番号	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	アポイント(割合)
1	(プログラム責任者) 南 學 正臣	ナナカク マサオミ		東京大学・医学系研究科・内科学専攻・教授	博士(医学)	腎臓内科学	幹事、教務タスクを分担	1
2	(プログラム責任者 旧1) 岡部 繁男	オカベ シゲオ		東京大学・医学系研究科・分子細胞生物学専攻・教授・研究科長	博士(医学)	解剖学、神経科学	プログラムの統括	1
3	(プログラム責任者 旧2) 宮園 浩平	ミヤゾノ コウヘイ		東京大学・医学系研究科・病因・病理学専攻・卓越教授	博士(医学)	分子病理学、分子腫瘍学	教務タスクを分担	1
4	(プログラムコーディネーター) 吉川 雅英	キツカワ マサヒデ		東京大学・医学系研究科・分子細胞生物学専攻・教授	博士(医学)	細胞生物学、構造生物学	プログラムの企画・運営を統括	3
5	水島 昇	ミズシマ ノボル		東京大学・医学系研究科・分子細胞生物学専攻・教授	博士(医学)	細胞生物学・生化学	教務タスクを分担	1
6	Danev Radostin Stoyanov	ダネフ ステイン タネフ		東京大学・医学系研究科・分子細胞生物学専攻・教授	博士(理学)	先端構造学	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	1
7	上田 泰己	ウエタ タロキ		東京大学・医学系研究科・機能生物学専攻・教授	博士(医学)	システムズ薬理学	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	0.5
8	大木 研一	オオキ ケンイチ		東京大学・医学系研究科・機能生物学専攻・教授	博士(医学)	神経科学	教務タスクを分担、教育リソース委員	1
9	高柳 広	タカヤギ ヒロシ		東京大学・医学系研究科・病因・病理学専攻・教授	博士(医学)	免疫学	教務タスクを分担	1
10	岩坪 威	イワツボ タケシ		東京大学・医学系研究科・脳神経医学専攻・教授	博士(医学)	神経病理学	教務タスクを分担	1
11	齊藤 延人	サイトウ ノブヒト		東京大学・理事・副学長 東京大学・医学系研究科・脳神経医学・教授	博士(医学)	脳神経外科学	教務タスクを分担	1
12	尾藤 晴彦	ビトリ ハルヒコ		東京大学・医学系研究科・脳神経医学専攻・教授	博士(医学)	神経生化学	幹事、教務タスクを分担、学生支援委員	1
13	石川 俊平	イシカワ シュンペイ		東京大学・医学系研究科・社会医学専攻・教授	博士(医学)	衛生学	教務タスクを分担	1
14	小野 稔	オノ ミノル		東京大学・医学系研究科・外科学専攻・教授	博士(医学)	心臓血管外科学	教務タスクを分担	1
15	田中 栄	タナカ サカエ		東京大学・医学系研究科・外科学専攻・教授	博士(医学)	整形外科 骨代謝学 リウマチ学	教務タスクを分担	1
16	大江 和彦	オオエ カズヒロ		東京大学・医学系研究科・公共健康医学専攻・教授	博士(医学)	医療情報学	教務タスクを分担	1
17	高木 周	タカギ シュウ		東京大学・工学系研究科・機械工学専攻・教授	博士(工学)	計算生体力学・流体工学	教務タスクを分担	1
18	小林 英津子	コバヤシ エツコ		東京大学・工学系研究科・精密工学専攻・教授	博士(工学)	コンピュータ外科	教務タスクを分担	1
19	一木 隆範	イチキ リュウキ		東京大学・工学系研究科・マテリアル工学専攻・教授	博士(工学)	ナノバイオ工学	教務タスクを分担	1
20	宮田 完二郎	ミヤタ カンジロウ		東京大学・工学系研究科・マテリアル工学専攻・准教授	博士(工学)	バイオマテリアル	教務タスクを分担	1
21	野地 博行	ノヂ ヒロユキ		東京大学・工学系研究科・応用化学専攻・教授	博士(理学)	生物物理	教務タスクを分担	1
22	酒井 康行	サカイ Yasuyuki		東京大学・工学系研究科・化学システム工学専攻・教授	博士(工学)	生物化学工学、生体組織工学	教務タスクを分担	1
23	山東 信介	サントウ シンスケ		東京大学・工学系研究科・化学生命工学専攻・教授	博士(工学)	化学生物学	教務タスクを分担	1
24	Cabral, Horacio	カブラル オラシオ		東京大学・工学系研究科・バイオエンジニアリング専攻・准教授	博士(工学)	Biomaterials, Nanomedicine	教務タスクを分担	1.5

14 プログラム担当者一覧（続き）

氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	リポート (割合)
25 関野 正樹	セキノ マサキ		東京大学・工学系研究科・ バイオエンジニアリング専攻・教授	博士（工学）	バイオイ メージング	教務タスクを分担	1
26 田畑 仁	タハタ ヒロシ		東京大学・工学系研究科・ バイオエンジニアリング専攻・教授	博士（理学）	バイオエ レクトロニ クス	教務タスクを分担	1
27 津本 浩平	ツモト コウヘイ		東京大学・工学系研究科・ バイオエンジニアリング専攻・教授	博士（工学）	分子医工 学、生命物 理化学	教務タスクを分担	1
28 鄭 雄一	テイ ユウイチ		東京大学・工学系研究科・ バイオエンジニアリング専攻・教授/医学系研究科・附 属疾患生命工学センター・ 教授	博士（医学）	再生医学、 組織工学	教務タスクを分担	1
29 高橋 浩之	タカハシ ヒロユキ		東京大学・工学系研究科・ 附属総合研究機構プロジェ クト部門・教授	博士（工学）	放射線科学	教務タスクを分担	1
30 佐久間 一郎	サクマ イチロウ		東京大学・工学系研究科・ 附属医療福祉工学開発評価 研究センター・教授	博士（工学）	生体医工学 精密工学	幹事、教務タスクを分担	3
31 上村 想太郎	カエムラ ソウタロウ		東京大学・理学系研究科・ 生物科学専攻・教授	博士（理学）	生物物理 学、細胞工 学	教務タスクを分担	1
32 榎本 和生	エモト カズオ		東京大学・理学系研究科・ 生物科学専攻・教授	博士（薬学）	神経細胞生 物学、神経 生理学	幹事、教務タスクを分担	2
33 大橋 順	オハシ ジュン		東京大学・理学系研究科・ 生物科学専攻・教授	博士（保健 学）	人類遺伝学	教務タスクを分担	1
34 角谷 徹仁	カクタニ テツジ		東京大学・理学系研究科・ 生物科学専攻・教授	博士（理学）	遺伝学	教務タスクを分担	1
35 久保 健雄	クボ タケオ		東京大学・理学系研究科・ 生物科学専攻・教授	博士（薬学）	動物生理化 学、細胞生 理化学	教務タスクを分担	1
36 黒田 真也	クロダ シンヤ		東京大学・理学系研究科・ 生物科学専攻・教授	博士（医学）	システム生 物学 トラ ンスオミク ス	教務タスクを分担、教育リ ソース委員	1
37 塩見 美喜子	シオミ ミキコ		東京大学・理学系研究科・ 生物科学専攻・教授	博士（農 学）、博士 （医学）	RNA生物学	教務タスクを分担	1
38 杉山 宗隆	スギヤマ ムネタカ		東京大学・理学系研究科・ 生物科学専攻・教授	博士（理学）	植物生理学	教務タスクを分担	1
39 角田 達彦	ツノダ タツヒコ		東京大学・理学系研究科・ 生物科学専攻・教授	博士（工 学）、博士 （医学）	医科学数理	教務タスクを分担	1
40 濡木 理	ヌキ オサム		東京大学・理学系研究科・ 生物科学専攻・教授	博士（理学）	構造生物学	教務タスクを分担	1
41 井上 将行	イノウエ マサユキ		東京大学・薬学系研究科・ 薬科学専攻・教授	博士（理学）	合成化学、 生物有機化 学	教務タスクを分担	1
42 金井 求	カナイ モトム		東京大学・薬学系研究科・ 薬科学専攻・教授	博士（理学）	有機合成化 学	教務タスクを分担、教育リ ソース委員	1
43 後藤 由季子	ゴトウ ユキコ		東京大学・薬学系研究科・ 薬科学専攻・教授	博士（理学）	分子生物 学・神経発 生学	教務タスクを分担	1
44 堀 昌平	ホリ ショウヘイ		東京大学・薬学系研究科・ 薬科学専攻・教授	博士（薬学）	免疫学	教務タスクを分担	1
45 村田 茂穂	ムラタ シゲオ		東京大学・薬学系研究科・ 薬科学専攻・教授	博士（医学）	細胞内タン パク質分解	教務タスクを分担	1
46 浦野 泰照	ウラノ ヤステル		東京大学・薬学系研究科・ 薬学専攻・教授	博士（薬学）	ケミカルバ イオロジー	教務タスクを分担、融合研 究実践・支援委員	1
47 楠原 洋之	クスハラ ヒロユキ		東京大学・薬学系研究科・ 薬学専攻・教授	博士（薬学）	分子薬物動 態学	幹事、教務タスクを分担	1

[公表]

14 プログラム担当者一覧（続き）								
氏名		フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	リポート(割合)
48	清水 敏之	シミス トシユキ		東京大学・薬学系研究科・薬学専攻・教授	博士（薬学）	構造生物学	教務タスクを分担、学生支援委員	1
49	富田 泰輔	トミタ タイスケ		東京大学・薬学系研究科・薬学専攻・教授	博士（薬学）	病態生化学	教務タスクを分担	1
50	岩間 厚志	イワマ アツシ		東京大学・医科学研究所・教授	博士（医学）	幹細胞生物学	教務タスクを分担	1
51	川口 寧	カワグチ ネジ		東京大学・医科学研究所・教授	博士（獣医学）	ウイルス学	幹事、教務タスクを分担、教育リソース委員	1
52	柴田 龍弘	シバタ リウヒロ		東京大学・医科学研究所・教授	博士（医学）	ゲノム医学・腫瘍病理学	幹事、教務タスクを分担	1
53	武川 睦寛	タケカワ ムツヒロ		東京大学・医科学研究所・教授	博士（医学）	分子細胞生物学、分子腫瘍学	教務タスクを分担	1
54	三宅 健介	ミヤケ ケンスケ		東京大学・医科学研究所・教授	博士（医学）	免疫学	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	1
55	岡崎 拓	オカザキ タク		東京大学・定量生命科学研究所・教授	博士（医学）	免疫学、分子生物学	教務タスクを分担	1
56	胡桃坂 仁志	クルミザカ ヒトシ		東京大学・定量生命科学研究所・教授	博士（学術）	構造生物学、生化学、分子生物学	教務タスクを分担	1
57	小林 武彦	コバヤシ タケヒロ		東京大学・定量生命科学研究所・教授	博士（理学）	分子遺伝学、分子老化学	幹事、教務タスクを分担	1
58	白髭 克彦	シラヒゲ カツヒロ		東京大学・定量生命科学研究所・教授	博士（医科学）	染色体機能制御	教務タスクを分担	1
59	新蔵 礼子	シンクラ レイコ		東京大学・定量生命科学研究所・教授	博士（医学）	免疫学	教務タスクを分担	1
60	泊 幸秀	トマリ ユキヒデ		東京大学・定量生命科学研究所・教授	博士（工学）	RNA生化学	教務タスクを分担、学生支援委員	1
61	Hensch Takao	ヘンシュ タカオ		東京大学・国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構・機構長・特任教授	Ph. D.	神経学	教務タスクを分担	1
62	ボーモン トクリス	ボーマント クリス		東京大学・工学系研究科・非常勤講師	修士	Global Business Leadership; Strategic Marketing Planning	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	3
63	三好 美咲	ミヨシ ミサキ		東京大学・医学系研究科・分子細胞生物学専攻・特任助教（R3.4.1理学系研究科より移籍）	博士（理学）	分子細胞生物学	教務タスクを分担、教育リソース委員	8
64	三村 維真理	ミムラ イマリ		東京大学・医学系研究科・内科学専攻・特任講師	博士（医学）	腎臓内科学	教務タスクを分担、教育リソース委員	1
65	富井 直輝	トミイ ナオキ		東京大学・工学系研究科・精密工学専攻・准教授	博士（工学）	生体計測	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	1
66	伏見 幹史	フシミ モトフミ		東京大学・工学系研究科・バイオエンジニアリング専攻・特任助教	博士（情報理工学）	生体磁気計測	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	2.5
67	藤澤 彩乃	フジサワ アヤノ		東京大学・工学系研究科・バイオエンジニアリング専攻・特任講師	博士（獣医学）	レギュラトリーサイエンス	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	4
68	古澤 孝太郎	フルザワ コウタロウ		東京大学・理学系研究科・生物科学専攻・特任助教	博士（理学）	神経科学	教務タスクを分担、教育リソース委員	1
69	渡邊 康平	ワタナベ コウヘイ		東京大学・薬学系研究科・特任助教	博士（工学）	有機合成化学	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	8
70	木村 博道	キムラ ヒロミチ		Astellas Venture Management LLC・Investment Director	博士（獣医学）	オープンイノベーション、事業アライアンス、創薬薬理、腫瘍生物学	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	0.5

[公表]

14 プログラム担当者一覧（続き）								
	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	リポート (割合)
71	後野 和弘	ゴノ カズヒロ		オリンパス株式会社・イノベーション推進室・チーフフェロー	博士（工学）	イノベーションマネジメント（先端医療技術）	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	1
72	高田 洋一	タカタ ヨウイチ		キヤノンメディカルシステムズ株式会社・常務執行役員・統括技師長	博士（工学）	医用画像システム工学	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	0.5
73	吉田 裕	ヨシタ ユウカ		塩野義製薬株式会社・事業開発部・オープンイノベーショングループ長	博士（薬学）	事業開発	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	1
74	大橋 建也	オオハシ タツヤ		シスメックス株式会社・診断薬エンジニアリング本部・診断薬エンジニアリング本部長	博士（医学）	臨床検査医学	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	3
75	楠 淳	クスノキ ジュン		Johnson & Johnson, Johnson & Johnson Innovation- Asia Pacific, Senior Director, Japan Country Lead and Early Innovation Partnering	博士（薬学）	医薬品開発	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	0.5
76	佐藤 真功	サトウ マサノリ		武田薬品工業株式会社・センターフォーエクスターナルイノベーション（CEI）ストラテジー&オペレーション・日本/APACヘッド	学士（理学）	医薬品開発	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	1
77	山内 敏正	ヤマウチ トシマサ		東京大学・医学系研究科・内科学専攻・教授	博士（医学）	糖尿病・代謝内科	教務タスクを分担	1
78	藤尾 圭志	フジオ ケイシ		東京大学・医学系研究科・内科学専攻・教授	博士（医学）	内科学、リウマチ学	教務タスクを分担	0.5
79	野崎 智義	ノザキ トモヨシ		東京大学・医学系研究科・国際保健学専攻・教授	博士（医学）	分子寄生虫学、感染症学	教務タスクを分担	1
80	岡田 随象	オカダ ユキナリ		東京大学・医学系研究科・遺伝情報学・教授	博士（医学）	遺伝統計学	教務タスクを分担	1
81	笠井 清登	カサイ キョウト		東京大学・医学系研究科・脳神経医学専攻臨床神経精神医学講座・教授	博士（医学）	精神医学	教務タスクを分担	1
82	藤城 光弘	フジシロ ミツヒロ		東京大学・医学系研究科・内科学専攻器官病態内科学講座・教授	博士（医学）	消化器内科学	教務タスクを分担	0.5
83	荻原 直道	オギハラ ナオミチ		東京大学・理学系研究科・生物科学専攻・生物学講座・教授	博士（工学）	自然人類学	教務タスクを分担	1
84	Choi Hyunjin	チェ ヒョンジン		東京大学・工学系研究科・化学システム工学専攻 特任助教	博士（工学）	細胞培養工学	教務タスクの分担・融合研究実践・支援委員	1
85	林 悠	ハヤシ ユウ		東京大学・理学系研究科・生物科学専攻・生物学講座・教授	博士（理学）	神経科学	教務タスクを分担	1
86	東山 哲也	ヒガシヤマ テツヤ		東京大学・理学系研究科・生物科学専攻・光計測生命科学講座・教授	博士（理学）	発生細胞生物学	教務タスクを分担	1
87	竹内 恒	タケuchi コウ		東京大学・薬学系研究科・薬科学専攻・教授	博士（薬学）	構造生物学	教務タスクを分担	1
88	岡部 弘基	オカベ コウキ		東京大学・薬学系研究科・薬科学専攻・助教	博士（薬学）	生物物理学	教務タスクの分担・融合研究実践・支援委員	1
89	永持 雅敏	ナガモチ マサトシ		第一三共株式会社・研究イノベーション推進部 オープンイノベーショングループ・主査	博士（薬学）	創薬化学	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	1
90	川島 奈子	カワシマ ナコ		東京大学協創プラットフォーム株式会社 / マネージャー	修士（学術）	ベンチャー支援	教務タスクを分担、融合研究実践・支援委員	0.2

成果の概要【2 ページ以内】

成果の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項

【概要】平成 30 年開始以来 6 年で、のべ 323 名が本プログラム（生命科学技術国際卓越大学院）を履修し、これまでに合計 137 人が修了した。令和 6 年度も新規生を同じ規模で受け入れており、文科省の支援が終了したのちもプログラムを維持・継続する体制を準備している。引き続き学生の経済的支援と教育プログラムを通じて専門能力、俯瞰力、展開力を持つ「知のプロフェッショナル」としての人材育成を実施していく。

【プログラム在籍時の成果】プログラム生は在籍時から着実に成果を挙げた。在籍時の発表論文数はのべ 291 報（うち国際ジャーナル 250 報）、雑誌の表紙への採用（PLoS Biol など）、さらに、Nature, Science への論文発表もあり、質・量ともに顕著であった。また、プログラム内で、異なる部局間の共同研究が開始され、プログラム生が第一著者で一流紙に論文を発表するに至った例もあった（Habazaki, et al., Nat Comm）。在籍時の受賞も 88 件（うち国際 8 件、日本学術振興会育志賞受賞者 2 名、ロレアル-ユネスコ女性科学者日本奨励賞、東京大学総長賞 2 名など）があった。

【修了生の成長】修了生のその後の活躍も目覚ましい。修了後の論文数は 426 報（うち国際ジャーナル 142 報）、雑誌の表紙に採用されたものは令和 5 年度分だけで 5 件（Development, Genome Res など）、Nature への論文発表もあった（Okumura, et al., Nature）。日本経済新聞などへの記事掲載、NHK の科学番組でも紹介された。この奥村周さんの成果は、本プログラムでサポートした海外短期研修（令和元年度）での派遣がきっかけとなり、共同研究へと発展したものである。若手研究者向けの受賞も多数あった（若手奨励賞 2 件（日本植物学会、日本生物物理学会）、理化学研究所梅峰賞、井上研究奨励賞など）。

【多様なキャリアパス】修了生の進路は、アカデミアだけに限らず、多岐にわたる。最も多いのが、民間企業への就職（任期・雇用期間の定めなし）で 64 件であった。ほか任期なしの職についたものは、大学教員 4 名、官公庁 2 名、医師等 4 名であった。任期ありの大学教員は 7 名、ポスドク（給与あり）は 32 名、うち 10 名が日本学術振興会特別研究員である。また、主な勤務地はコロナ禍の影響もあり日本国内が多いものの、出身国以外の海外で職についたものも 6 名いる。

【人材育成・交流】全体会議やコロキウム、WINGS-Journal Club、国際卓越講義、企業セミナーなどを通して、学内外の著名な研究者や気鋭の若手研究者、および企業人材との交流の機会を提供した。プログラム生は積極的に国内外の大学や研究機関と共同研究を実施し、令和 5 年度末の調査時点で継続中と報告があったものだけでも 57 件にのぼる。さらに、特に優れた交流の例として、マサチューセッツ総合病院（MGH）と本プログラムの合同ワークショップについて紹介する。コロナ禍で海外研究機関との連携アクティビティが極めて困難な時期に、プログラム生主導で、MGH との学生合同ワークショップをオンラインで企画・実行した。渡航制限がなくなった現在、隔年で相互の拠点を行き来する形で恒例の学生ワークショップとして定着し、令和 6 年度もボストン開催に向けて準備を進めている。

以上より、人材育成・交流および、新たな共同研究の創出が展開された拠点を形成し、それを持続的に展開する体制を整えた拠点形成に成功したと言える。

② 計画通り進んでいる事項

【「知のプロフェッショナル人材」の育成】在籍時および修了後に、論文発表や受賞などについて顕著な成果があったことからわかるように、生命科学分野のアカデミアの将来を担うと期待される若手研究者を育成することに成功した。また、アカデミア以外においても、修了生の多くが企業等へ就職し、多様なセクターおよび職種において活躍する人材を育成することができた。

【大学院教育への波及】WINGS-LST 開始後に独立に開始した JST の SPRING-GX とは積極的に連携し、学生選抜や教育プログラムの提供など、プログラム教員および事務局が全面的に協力した。生命科学系の SPRING-GX 生として選抜された博士大学院生を準プログラム生として受け入れ、ほぼすべての教育プログラムを SPRING-GX 生にも参加機会を提供するなどし、教育プログラムの横展開・波及に努めた。

【ネットワーク形成・共同研究】研究室ローテーションや共同研究支援を毎年度実施した。その結果、プログラム内で研究科をまたいだ共同研究が推進され、論文発表に至った例もある。プログラム生は、留学生比率および女性比率が維持あるいは上昇傾向にあり、大学院の国際化と多様化に寄与している。また、WINGS-LST 生の選抜に関しては、プログラム開始から現在に至るまで、つねに倍率を 2 倍程度に維持しており、最優秀層の獲得に努めた。

【KPI の達成】採択後に決定した KPI のうち、実施状況調査票 2-1 活動状況に記載されたものについて、令和 5 年度は、3 つのうち 2 つ達成し（海外大学等への派遣学生数 12 名（KPI:12）、プログラム履修生の国際ジャーナルへの掲載数 58 件（KPI:50））、未達成だった 1 つについても KPI 比で 88% であった（プログラム履修生の国際学会発表数 44 件（KPI:50））。

③ 改善が必要な事項

【企業との連携】企業との連携には課題が残った。原因は主に二つある。一つは、連携機関として参加していた企業の多くが製薬系および医療系企業であり、通常の消費財関連の産業界との連携体制の構築と違って、重大な利益相反が生じる可能性がそもそも高い。そのため、資金提供を伴う連携形態は、交渉の初段階で頓挫することがほとんどだった。二つ目は、コロナ禍である。一つ目の理由とも関連するが、ただでさえ慎重かつ丁寧な交渉が必要とされる局面で、対面でのコミュニケーションが著しく制限されたのは致命的であった。教育プログラムをオンラインで継続することだけでも多大な労力を必要とし、企業との連携の開始や継続の優先順位が下がってしまったのは否めない。ただし、対面でのミーティングが復活し始めた令和 4 年度より、再度連携機関との交渉をリスタートし、令和 5 年度までに、以下の成果はあった。①企業との「共同研究創出プログラム」に基づき企業から資金提供を得た。②連携機関企業の協力を得てインターンシップを実施した（国内、1 名、1 週間）。③コロキウムのグループワークに連携機関企業の若手研究者を参加させ、相互交流およびネットワークの形成をはかった。④連携機関以外の企業より高額機器の無償貸与を受け、プログラム生も利用できる体制を構築している。

④ プログラムとしての今後の見通し

【大学からの継続的サポート】東京大学・本部は、令和 7 年以降（文科省卓越大学院プログラムの終了後）も WINGS-LST をサポートしていくことを約束しており、そのための財政基盤の整備を行って来た。これにより、現在の規模を発展させながら、生命科学技術の融合研究を推進する学生の育成ができる見通しが立っている。例えば、大学院教育全体へ WINGS-LST の成果を波及させるために、令和 4 年に始まった JST 財源 SPRING でサポートされる学生のうち、生命科学技術を研究する学生は、WINGS-LST のカリキュラムを受講している。逆に、令和 5 年度博士課程入学の WINGS-LST 生は、奨学金として新 SPRING-GX を獲得することを推奨し、14 人が採択された。また、約半数のプログラム生が、博士課程で日本学術振興会特別研究員 DC に採用されている。5 人は、民間の奨学金を獲得している。これに加え大学本部は、修士・博士一環プログラムの学生の経済的支援を最優先課題としており、令和 7 年度以降もプログラム生への経済的支援・教育プログラムの継続見通しが立っている。